

NEWS RELEASE

2010年11月9日
コベルコクレーン株式会社

コベルコクレーン 2010年9月中間期 決算概要

【2010年9月中間期の概況】

海外クレーン市場は、2008年秋の金融危機以降、約2年にわたり需要の低迷が続いていますが、未だ需要回復の兆候は見え、厳しい状況が続いております。新興国へのマーケットシフトにより、インドなどの一部地域では底堅い需要がありますが、従来から需要の中心地とされてきた欧米市場の落ち込みは大きく、依然として、市場は全世界的に底ばい状態にあるといえます。また、これに追い討ちを掛けるように、円高の影響による、熾烈な競合環境が継続しています。

国内のクレーン市場においても、工事量の減少や、先行き不透明感からユーザの買い控えが続いており、クローラクレーン、ホイールクレーン共に、新車需要は低迷を続けております。

このような厳しい環境の中、受注残の確実な売上と地道な営業活動により、販売・収益の最大化に取り組むとともに、コストダウンや経費削減など、全社を挙げて収益の確保に取り組みました。当期の重点取り組みは、下記の通りです。

インド・中国での現地生産の決定
受注残の確実な売上と、柔軟な客先対応
更なるラインナップ強化に向けた新機種の開発推進
収益力アップに向けた更なるコストダウン推進

全世界的な需要減退を受け、2010年度9月中間期(2010年4月～2010年9月)のクレーン新車販売台数(全クレーンメニューの総台数)は約240台となり、前年同期比で約11%減(09年度上期の新車販売台数は約270台)となりましたが、上述した取り組みにより、収益面での落ち込みは、最小限に留めることができました。

また、2010年度より始まった「中期経営計画 “1111” <2010～2012年度>」に基づき、技術・ブランド力を事業基盤に据えて、グローバルステージで活躍できる企業を目指しての体制整備に着手しました。

これらの結果、コベルコクレーンの2010年度9月中間期の業績は、連結の売上高で前年同期比18.0%減、経常利益は前年同期比86.1%減となりました。

<2010年9月中間期の実績>

{単位:百万円、()内は前年同期比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	2010年9月中間期	23,363 (18.0%)	193 (85.7%)	191 (86.1%)	60 (92.6%)
	2009年9月中間期	28,489	1,348	1,371	813

連結の売上高は国内向けが90億円(前年同期比 12.3%)、海外向けが144億円(同 21.2%)となり、全体としては234億円(同 18.0%)となりました。

【2010年上期の事業別状況】

海外市場

海外市場においては、全世界的な需要減退、急激な円高による客先の資金調達難などの厳しい環境の下、新興需要地での取り組みをより一層強化するため、インド、中国で新たに現地生産拠点を設立し、将来に向けた事業基盤の構築に取り組みました。エリア別の需要環境並びに当社の取り組み状況は下記の通りです。

- ・〔米州市場〕：経済対策の一環として公共事業投資が行われましたが、クレーン需要の大きな回復へは繋がらず、需要は低迷しています。このような厳しい状況の中、既存代理店の販売力・サービスの強化を図るとともに、代理店・サービス流通網の更なる拡充にも取り組みました。
- ・〔欧州／アフリカ市場〕：一時クローラクレーンの新車需要も回復基調にありましたが、ギリシャの金融危機を発端に改めて凋落傾向にあります。そこで、EU域外での新車販売に注力するとともに、部品・サービス・エンジニアリングなど、新車以外の事業強化に向けた取り組みを進めました。
- ・〔中東市場〕：一部地域での大型プロジェクトの推進も期待されていますが、余剰機械が相当数あり、新規需要は停滞しています。そのような中、代理店・ユーザへの研修を実施し、技術力の向上に取り組みました。
- ・〔極東／東南アジア市場〕：インフラ整備や政府の大型プロジェクトが今後数多く予定されているため、需要が期待されるものの、急激な円高により販売台数は伸び悩んでおります。このような状況の中、現地代理店営業の販売力の強化を図るとともに、部品・サービス体制の強化にも取り組みました。
- ・〔中国市場〕：現在、単一国としては世界最大のクローラクレーン市場を形成している中国へは、その取り組みを強化し、ユーザのニーズに迅速に対応するため、本年9月25日に現地建機メーカーの「四川成工」との合併により、生産販売会社「成都神鋼起重機有限公司」を設立いたしました。2012年8月からの現地生産の操業開始を目指します。
- ・〔インド市場〕：旺盛なインフラ投資を背景に、中国に次ぐ規模に成長する事が期待され、当社がシェアNO.1を獲得しているインドにおいては、従来の駐在員事務所を格上げする形で、本年8月に現地法人「KOBELCO CRANES INDIA PVT. LTD.」を設立いたしました。2011年10月から現地生産を開始し、確固たる地位を築きます。

国内市場

国内のクレーン市場は、足元の工事量減少に伴い、総じてユーザの稼働率は芳しくなく、また先行きの不透明感からくる様子見や買い控えにより、新車市場は依然として低迷しております。

- 〔クローラクレーン市場〕：需要は前年同期比約31%減となりましたが、受注残の確実な出荷と、地道な受注活動の継続により、販売の落ち込み幅を最小限に留めることができました。
- 〔ラフテレーンクレーン市場〕：需要は前年同期の落ち込みが大きかったため、前年同期比約24%増となりました。シティコンシャスクレーン パンサーX(エックス)シリーズのさらなる市場浸透を中心とし、ホイールクレーン事業の強化に取り組んでいます。

他社との提携関係

米国マニトワック社へのクローラクレーンのOEM供給については、世界的な需要後退の影響により、販売台数は伸び悩んでおりますが、前年同期の落ち込みが大きかったため、前年同期比微増となりました。

ラフテレーンクレーンについて、小型機種本体のOEM供給を受けているタダノ社との提携関係においても、有効な提携関係を維持することができました。今後も引き続き緊密な協力関係を継続していきたいと考えております。

【今後の重点課題と2010年度の見通し】

2010年度における世界的なクレーン需要は、エリア別の濃淡はあるものの、国内、海外ともに市場環境は引き続き厳しく、更なる需要減退の可能性も含んでいます。加えて、円高の更なる加速や、為替の影響によるユーザの金融不安など、先行きは依然として不透明な状態です。

このような厳しい事業環境の中、より確実な受注・売上活動と、コストダウン活動を継続し、経費削減、収益確保を図ってまいります。また、「中期経営計画“1111”」の推進と共に、下記の重点課題に確実に取り組むことで、次の飛躍に向けた施策を着実に実行してまいります。

< 重点取り組み課題 >

地域戦略を軸とした最大販売量の確保

インド・中国での生産拠点確立に向けた取り組みの強化

海外新興需要地への注力

排ガス対応を含めた環境対応モデルの開発推進

JIT生産レベルアップによるリードタイム短縮とキャッシュフロー改善

全ての事業活動での徹底した効率化とコストダウンの推進

< 2010年度通期の見通し >

{単位:百万円、()内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	48,000 (9.5%)	0 (100.0%)	0 (100.0%)	0 (100.0%)

* 2010年度下期における為替レート前提: 1米ドル=85円、1ユーロ=110円

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

平成22年9月中間期 決算業績概要

会社名 コベルコクレーン株式会社
 代表者 代表取締役社長 藍田 勲
 問合せ先責任者 経営企画本部長 砂河 利文 : 03(5789)2130
 決算取締役会開催日 平成22年10月26日
 親会社 株式会社神戸製鋼所(当社株式の保有比率:100%)

1. 平成22年9月期の連結業績(平成22年4月1日~平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	(当期)純利益	一株当たり (当期)純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
22年9月期	23,363	193	191	60	393.56
21年9月期	28,489	1,348	1,371	813	7,836.19
22年3月期	53,056	1,581	1,683	916	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	一株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年9月期	47,053	28,760	61.1	277,070.68
21年9月期	49,144	28,021	57.0	269,959.35
22年3月期	50,454	30,308	60.1	-

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
22年9月期	1,520	1,056	403	3,217
21年9月期	1,794	2,616	1,867	198
22年3月期	1,731	1,697	2,795	2,346

2. 平成23年3月期の業績予想(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
連結(通期)	48,000	0	0	0

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。
 実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。